オモダカ科 サジオモダカ属

ヘラオモダカ（箆面高）

Alisma canaliculatum A.Braun et C.D.Bouché

自生環境

湿地、休耕田 など

原 産 地

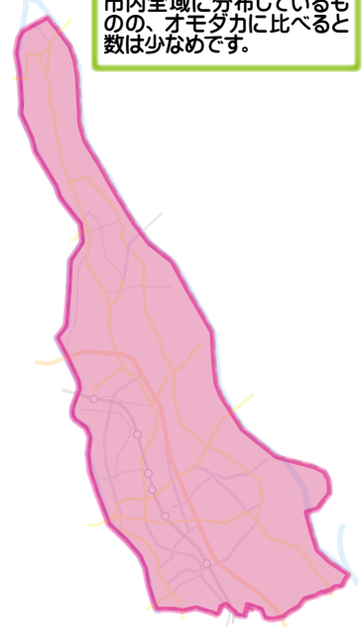
日本在来

生育を脅かす要因

場所柄、除草剤や埋め立てなど人間活動の影響を受けがちです。また周辺の開発に伴う地下水の変化や、外来種の繁茂などによる「湿地の乾燥化」も生育の脅威となります。

市内の分布状況

市内全域に分布しているものの、オモダカに比べると数は少なめです。



特　徴

- 休耕田や浅い水路など、 湿った場所に生える多年草です。 オモダカよりも自然度の高い場所を好み、 市内では谷津（斜面林と水田・湿地が組み合わされた環境）の奥のほうで多く見られる傾向があります。
- 株もとから細長い「へら形」の葉を何枚も出します。 葉の長さは 4 ～30 cm ほどで、 根元に向かってゆっくりと幅が狭まっていきます。 夏から秋にかけて、 株もとから茎を立ち上げ、 葉よりも高くのびて花をつけます。 株の大きさは個体差があり、 ときに草丈 1m 近くに育つものもあります。
- 茎はふつう3本ずつ枝を出し、 その先に直径7～8mm ほどの小さな花を咲かせます。 花びらは3枚で縁はギザギザし、 つけ根は黄色くなっています。 雄しべの葯はふつう黄色です。

意外に個性豊かな種

ヘラオモダカは個体変異が多く、いくつかの変種が知られています。例えば、兵庫県にのみ自生するホソバヘラオモダカは葉がより細長く、葯は紫色。ヘラオモダカより1～2時間ほど遅れて開花します。また、長野県と岐阜県で見つかっているアズミノヘラオモダカは、花茎が葉よりも短く、花が密集します（葯は黄色）。精査すると身近な場所で、新しい変種を発見できるかもしれませんね。

わぴちゃんねる 千葉県野田市の植物を動画で紹介！

https://www.youtube.com/channel/UCJvrXBJegnWATWd-UZsNzCA